

ひと花新聞

第95号

令和3年9月5日
発行：NPO法人釜ヶ崎支援機構
ひと花センター
〒557-0002
大阪市西成区太子

電話：06-6649-7890
1 | 13 | 15

ナゼ波に揺れる満月 淡路の灯 (一平)

ひと花プロジェクト
あいりん地域にて単身高齢で生活保護を受給している方の社会参加、及び生活支援のプログラムを行う事業として2013年7月にスタートしました。プログラムを送りついでにひとりひとりが生き生きと生きられるよう、またそれによって地域が生き生きとなるような活動をめざします。



夏の終わりに...



(七好馬天判作世の中に元氣五!)
皆 想い、想いを



私のよもやま話

私は、夏になると、いつも思いだす事があります。母の実家は、徳島県の脇町と言う所から、山の中に、5キロ位登った、集落で、吉野川の支流に有り、当時は、清流で、2メートル位川底が、ハッキリ見えました。川から水路で、水を引いて田植えするので、田んぼの中に、鮎がいたら、アユを拾うて来たって、焼いて食べた記憶があります。土用の丑の日になるとお爺さんが、これ持って着いて来い。魚を入れる竹籠で、ウナギを取りに行くと、石屋さんが、使う大きな、ハンマーと、古いノコを持って川に行くと、雨が、少なく、田んぼの水で、浅くなり、石がゴロゴロ、手頃な石を選びハンマーで、ゴーン すると、振動で、ウナギが、によりよって、出て手をつかむと、逃げるので、ノコの、刃の方で押さえて竹籠に、近所の人何人かで、一人、2、3匹になると、それ以上は取らず、帰って料理してる時に、これは、お前にやる。それは生肝で、ピクピクしてる生肝を飲みこんだ思い出が、あります。毎年、土用の丑の日になると、お爺さんや美味しかったウナギの事、思い出します。何年か前に、お盆に、墓参りした時、川で魚釣ろうかと言ったら、誰も、盆には、殺生はしないとわれ嬉しかった思い出が有り、ます。桐井でした。

筆にのせて。

お盆ありのつゆにか過ぎてしまつました。ひと花センターのプログラムも今は天下茶屋の花の水やりと年入れだけですが、週3回有るので自分はこの水くらしでいソコなと思つたりします。歌の文句にソコ奴ばのり先に逝又ソコでもソコのが残されるソコ一節が有りますか本堂に身をすくめる思ソです。水槽の魚のふさはどうなってるのか木鳥のエアヤ水は誰かせ話をしてくれてるのか青木さん顔をしぼらく見てなりたとかそんなことを考えています。たな



飾らないコスモスの花カワイイナ (G.d)

昭和は遠くになりけり (A)
相戸と大鵬の千秋楽全勝
相戸は、相戸が一年近い休み明けであり、数年前の予想では大鵬圧倒的有利だった。だが相戸が勝った。翌日の又ホーツ新聞には、相戸後の全勝優勝の記述が踊った。これに冷水を浴びせたのが芥川賞作家、石原慎太郎だった。日刊スポーツ紙上で、八百長たの記述を載せた。もとく八百長は解界から消えた。相戸は、実際にはあった。そう言う時、相撲協会は大鵬とものに、これにまっこうから否定し、珍しく協会も抗議した。さすがに謝罪文を載せた。大鵬が生前よく言っていた。相戸あっての大鵬。大鵬あっての相戸。この言葉がすべてである。相戸時代だった。



無縁墓地集う仲間と赤とんぼ (一平)

何もかも知っているよな案山子さん (なべさん)

三日月や夕エロの音悲しひとり酒(二平)

三日月がひとり淋しく光った(Gold)

今年こそ

おまじりしたし秋彼岸(岡本太郎)

新しい登録者の方から投稿です↓
皆様からの投稿お待ちしております。



私は本を借りて図書館に行き、ひと花センターの新聞に目がいり、ボランティアとして、農作業、地域清掃などに参加したいと思い、ひと花センターに昨年の11月と夏に面談に行きました。

一帯に身体の事を心配してしまいました。自分の都合の良い時に来て下さいとのことでしたので安心した。冬だし私なりに農作業の雑用ないかい、私私事の都合もありましたので今年3月初めにひと花センターに顔を出して4月頃暖かくなったら来ますと伝えました。職員の方が「天下茶屋駅前の花の水やりの作業があります」とのこと。参加することにしました。花の水やりは真面目でさ

していたので私は清掃の方にまわりました。天下茶屋駅前の花の水やりが私のひと花センターでの初日作業でした。その後は、私の都合の良い日に農作業の雑用、地域清掃、公園の草むしり、排気、100歳体操、衣類の仕分け、ひと花センターの花壇、中庭草むしり。

私は汗をかいて身体を動かす方が向いている本業に気がわかります。

畑で野菜を作っている方、フロアで野菜を育てている方はお歳を聞いてびっくり、フロアの土の重さ、重さは大変なものです。それを運んでいる姿を見て感服しました。今は夏で暑いから朝夕毎日2回野菜の水やり。私には出来ず事ではありません「責任」の強さ、簡単な事で毎日続けることはなかなかできません。職員さん方も農作

業されている方には「信頼」されていると思います。職員の方も色々の方に相談を受けお世話されているのを見て、人の「つながり」。ひと花センターに入らせていただき、責任、信頼、つながりも学び、私なりに「思考言動」に掛け、生活していきたいのです。

私のひとりごと。あのお寺さんの前で「耳は聞いている自分のうそを聞いている」と書いておりました。私はその意味が、すぐに理解できました。人にうそついて馬鹿にして自分の耳は自分のうそを聞いている。お尚さんは私の心の中をお見通し、恐れ入りのさりげなく。一日頭の中が17は0にしていた。

「尚志てんとう虫よりの草取り、とっては出、とっては出てくる」
「刺激的な高揚感」



→板敷コのような畝完成
新しい畑作り...に着手



（当面の間プログラムのお木叶しまのm(-_-)m 感謝部の方へ、くちくちもご自愛下さい。

私とくすり
皆さんは一日どのくらい飲んでいますか？私は朝8錠、昼1錠、夜5錠他に鼻にさすくすり、舌にのすり、薬液、目薬、1日7回差しています。おびくすりまで生かされてみんごすどおかんらそうと思ってもお方の身体では自力で治す力はありません。これらもこれだけのくすりをつぎあっていけないと思うとおもいます。でも生きていくには必要です。最近死んでも...病院も行くたくら...と云う方がすごく多くなっています。なぜ死ぬに死に急ぐのか私にはわかりません。私にはいっほい、やりたい事があります。養生するといふ事があると私は思っています。



満月が光輝く秋の夜(Gold)
秋の葉物が染しみさす↓
さつまいもが順調さす↓
屋上で小望月待つ父娘(岡本太郎)



しびきよけ根性の鯉のぼりけり(なべさん)

「人助けって大変ですね。」

7月の末の話やね。混んでる鶴見橋商店街の入り口で立ち往生になってたんよ。横断歩道をね、車いすにたくさん荷物載せて、おじいさんが押してるんやけど、全然進まんでね、信号に間に合わんのよ。俺が声を掛けに行くんやけど、とりあえず中央分離帯？に退避させようとしたけど、足が動かんのか、全然進んでくれんし、声掛けても返事もせんし。そうこうしているうちに信号が赤になって。それでも、何とか中央付近で付き添って一緒に待機して。でも信号が青になっても動けんで、だんだんこっちもイライラしてくるし。埠が明かんから、警察に連絡してって、周りの人に言ったら、それは誰かが呼んでくれてね。次の信号でも渡り切れんで、結局俺が車止めたんよ。その後警察が来たから、もう後は任せて、結局、俺、なんかもう文句タラタラ言いながら帰ったけどね。？...俺がヒーローになった話をするつもりやったんやけどね。あれ(笑)年の頃、80半ばのおじいさんやね。支給日の後だから、動けんでも買い物にいきたくったんじゃないかな。付き添ってくれる人いないのかなあ。人を助けると決めたら、文句言われてでも何としてでも助けるべきってことやね。人助けって、大変ですね。

みみずのたまご でした。

とくじい